

今週のメニュー

■年頭挨拶

塩ビ工業・環境協会 会長 角倉 護

■年頭所感

塩ビ工業・環境協会 専務理事 関 成孝

■編集後記

■年頭挨拶

塩ビ工業・環境協会 会長 角倉 護

皆様、明けましておめでとうございます。新年に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返って見ますと、世界の政治情勢はトランプ大統領の就任に始まり、何かと騒がしい状況が続きました。中東や北朝鮮を始めとする地政学リスクも大きくなっており、予断を許さない状況が続いています。経済面では、アメリカの好調に牽引され、日本、欧州、アジアの新興国も堅調な一年であったと言えます。

このような状況の中、昨年の塩ビ樹脂の出荷は堅調に推移し、総出荷量は暦年で、166万トンなる見通しであります。前年比104%。160万トンを超えるのは2010年以来7年ぶりとなります。166万トンの内訳は、国内出荷量は105万トン、輸出は61万トンとなっており、いずれも前年を4%程度上回ったものと推定されます。昨年の協会メンバー各社様のご尽力に対し、お礼申し上げます。

今年、2018年につきましては、国内は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けたインフラ整備や建設工事が本格化する、加えて国交省がインフラの老朽化更新を本格化することとありますので、塩ビ樹脂の需要は昨年を上回るものと期待しております。輸出につきましても、主な輸出先であるインドの塩ビ市場が順調に伸びて行くこと考えられることから、昨年以上の輸出量になることは確実と思われれます。一方で、塩ビメーカー各社は既に稼働率が高い状態が続いており、安全操業に全力を傾注し、供給責任を果たすべく、気を引き締めて臨みたいと考えております。

さて、VECとしての活動は、昨年に引き続き、環境問題やリサイクル事業の支援活動に注力して参る考えです。アメリカのパリ協定離脱の動きがあるものの、世界は間違いなくCO2削減の方向に動いており、後戻りは無いと言えます。日本でもゼロエネルギー社会



VEC角倉会長

賀詞交歓会でご挨拶頂いた
経済産業省 及川審議官

実現に向けた取り組みが本格化されていくと思います。当協会と致しましても、ZEB/ZEHの実現に向け、樹脂窓の普及活動を行ってまいりました。

『ZEB/ZEHの実現を考える会』の開催や、各地のセミナーへの参加などの広報活動だけでなく、樹脂窓の耐久性評価方法を確立するための規格作り支援や、LCA評価のためのデータ収集も行っております。今年は、これらの活動を一層強化して参ります。



VEC賀詞交歓会風景

塩ビは、塩ビを製造する過程でもエネルギー消費が少ない樹脂であり、耐久性の高い建材用途のみならず、環境に優しい特性を活かして新たな用途開拓が進むよう協会としても積極的に支援して参りたいと考えております。

また、引き続きリサイクルの推進にも力をいれていきます。昨年は、これまでリサイクルが困難とされていた塩ビ壁紙のマテリアルリサイクル技術の開発を支援しました。現在、回収された使用済み壁紙から工事現場での安全マットを製造するプロジェクトが進んでおります。2020年の東京オリンピック・パラリンピックにおいても、リユース・リサイクル性能という観点から、塩ビ製品が積極的に採用されるよう関係諸団体にアピールして参りたいと考えております。皆様のお力添えを宜しくお願い致します。

最後になりますが、塩ビ事業に携われておられる各社様の益々のご隆盛と、本日ご臨席の皆様のご健勝を祈念いたしまして年頭の挨拶とさせていただきます。

(1月9日(火)開催のVEC賀詞交歓会での、会長年頭挨拶を掲載いたしました。)

■年頭所感

塩ビ工業・環境協会 専務理事 関 成孝

あけましておめでとうございます。

ここ数年、「持続的成長」が先進国、途上国ともに大きな課題として認識されています。2015年の国連サミットでは17分野別に169項目のターゲット(達成基準)が盛り込まれ、そのフォローアップは世界各国の様々な階層で進んでいます。

ターゲットには、地球環境問題や生活と暮らしに関わる課題が多く含まれますが、都市化の進行により2050年には都市人口が現在の1/2から2/3に増大すると予測されていることを踏まえれば、強靱な都市インフラと質の高い居住・職場空間を整えていくことが重要です。また、循環型社会を形成し維持管理を含めた資源効率を高めることが、先進国、途上国を問わない大きな課題となります。貧困と飢餓からの脱却に関しては安定的で生産性の高い食糧生産も重要な課題です。

このような世界環境において塩ビ市場は拡大し続けています。途上国では、基礎的なインフラである給排水や、農業の効率向上と安定性を高めるための灌漑のためのパイプの需要が堅調に伸びています。市場が成熟した先進国においても出荷量が伸びています。これは、旺盛な途上国での需要に対する輸出の増大が牽引する部分もありますが、米国では、

新規住宅着工の増加が内需を拡大させています。四半世紀前には樹脂窓が売れることはないと言われていたフロリダ州においても、販売される窓の55%（2015年）が樹脂窓となり住宅の質の向上に寄与しています。わが国でも、ネットでエネルギー使用がゼロとなる住宅・建物（ZEB／ZEH）の普及が進み、その鍵となる建材として樹脂窓のシェアが急拡大しています。住環境の質が大きく改善されることから、高齢化が進む社会において、健康・安全・快適の増進による生活の質の向上にも大きく寄与するものと考えられます。

循環型社会の姿かたちは国ごとの地理や社会、産業構造により違いは出てくるでしょうが、耐久性やリサイクル性能など塩ビ素材の持つ基本的な性質が活かされることとなるでしょう。その観点で、日本における成功事例は他の国々においても良き参考となるはずです。わが国では、塩ビ管、農業用ビニールのリサイクルは1960年代後半から始まっています。その後、それぞれの業界のイニシアティブにより効率的なリサイクルの仕組みができあがり、出てくる廃材の7割前後がリサイクルされるに至っています。被災地宮城県、熊本県で回収されたパイプがパイプに再生され復興の象徴にもなっています。

これら単一素材からなる製品だけでなく、壁紙のようにこれまでリサイクルが困難と考えられていた複合材にもリサイクルの道が拓けました。壁紙の張替の現場で発生する小口の廃材を、施工業者、卸業者の協力を得て効率的に回収する仕組みで、現場での分別と中間処理前の再分別の組み合わせにより施工現場の負担を抑えて経済性をもたせ、これまで最終処理に回っていた廃材のほぼすべてをマテリアルリサイクルする試みです。関係業界が2017年8月に広域認定を受けこれから本格稼働します。これまでリユースが積極的に行われていたテント生地においても、再利用できない製品をリサイクルする道筋ができおり、Tokyo2020が良いデモンストレーションの機会になると期待されます。2018年における進展はその意味でも重要になると受け止めております。

塩ビ製品の歴史は長く世界で初めて商業化されたのは1930年代。成熟した製品ではありますが、技術開発は続いており、この10年間に7万件の特許が登録され、これまでの登録件数の4割にも及びます。デザイン性の良さからファッションの分野でも多く使われるようになりまし、従来製品分野でも意匠性に優れた製品が続々と登場しており、塩ビの潜在性はまだまだ高いものがあると思います。

末筆ながら、皆様の益々のご発展をお祈りいたします。

■ 編集後記

新年あけましておめでとうございます。

今年の干支の戌年には、勤勉・努力家という意味があるそうです。前年の酉年は取るにつなげて収穫の意味があり、その後年の戌年は次の実りに向けての地固めやご利益を引き寄せるためのフォローに努めることにもつながると思います。

今年もメルマガでわくわくするような話題をお届けしたいと思っています。引き続きご愛読いただけますよう、よろしく願いいたします。

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp
